

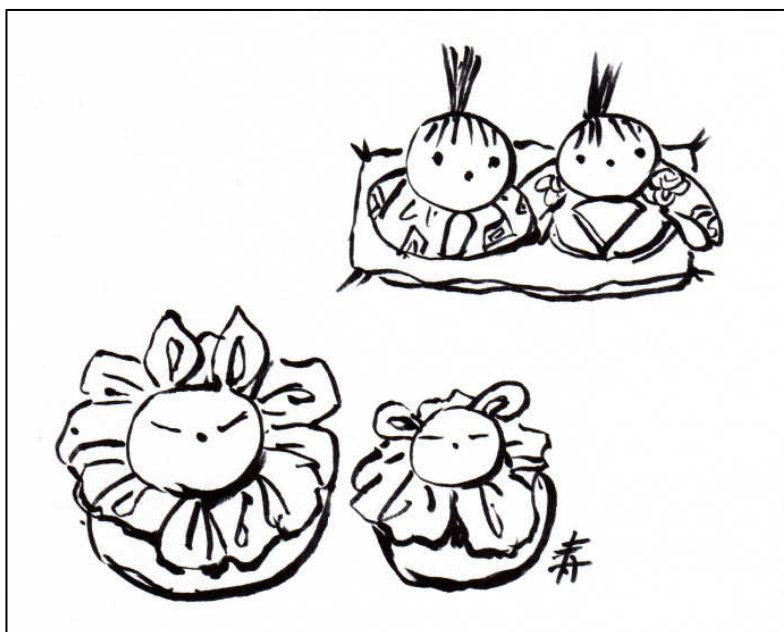
# どんびま

2013年3月13日発行  
発行者 椛の湖農業小学校

## 山の講

山の神様の祭りである山の講は春秋二度ある。春は旧暦の2月7日(今年は3月18日)、冬の間山に帰っていた山の神を、田の神として里に迎えるお祭りである。

春は山の神が木の種子を蒔き、秋には木の数を数えるから、その邪魔をしないように山に入らない。刃物を使うことを禁じて、その日は山や田畑の仕事を休む。昔は木ッ端で農具のミニチュアを作って供えて作業の安全を祈った。



家ごとや講(地域・集団)でお祭りをする。自分の山の入り口に山の神様を祀る家は餅を搗いて投げる。子どもたちの通学バスの時間に合わせて、集落の上から順に餅拾いに回る。暖かくなった陽射しや出始めた草草の芽にあらためて春を実感する日でもある。(草)

## 3月授業日のご案内

- |                |             |            |                             |
|----------------|-------------|------------|-----------------------------|
| ●日程            | 3月31日(日)    | ●服装        | 作業のできる服装                    |
| 受付             | 9:00~9:30   | ●持ち物       | 手袋、タオル、長靴、雨具、食器(皿、汁用椀、湯のみ)箸 |
| 入学式            | 9:30~11:00  |            | エプロン、軍手(五平餅焼き用)             |
| グループ紹介         |             |            | 寒さ対策もお忘れなく。                 |
| 学校・農場の説明       |             | ●昼食        | 五平餅(グループ活動の中でみんなで作ります)      |
| グループ活動         | 11:00~12:00 |            | 豚汁など                        |
| 昼食             | 12:00~13:30 | ●返信はがき締め切り | 3月25日(厳守)                   |
| 授業             | 13:30~15:00 |            |                             |
| じゃがいも植え        |             |            |                             |
| ほうれん草・にんじんの種まき |             |            |                             |
| 終わりの会          | 15:00~15:20 |            |                             |

●問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362 (山内總太郎)

～とくちゃんの農小レポート～

## 冬期の課外授業活動報告

第19期終了後の課外授業について報告いたします。

### \*12月24日(祝) 藁細工 (下野区 見佐島集会所、13名参加)

午前中は「しめ縄」作りで、門松用、玄関用、車用など、それぞれ飾る用途に合わせてとても上手に出来あがりしました。

午後は農小の佐々木先生の指導のもと、昔ながらの「わら草履」に挑戦し、型違いは有れども一足分は出来あがりしました。

### \*1月6日(日) 連凧作り、左義長体験 (下野いきいき会館、20名参加)

午前中は連凧作り、今年は風の具合が良く、100Mの凧糸一杯伸ばす事が出来ました。

午後はあぼ兄が集めてくれた材料を使い、皆で「左義長」(どんど焼き)を作り、四方から点火して、赤々と燃え上がり歓声があがりました。

当日は地元有志による「人形供養」が行われおり、和尚の読経のなか線香をあげて、役目を終えた人形の供養に参加いたしました。其のあとで「お振舞い」の豚汁・ふろふき大根(アボ兄のほら吹き大根)・甘酒などをご馳走になりました。

### \*2月17日(日) 絞り染め、花餅づくり (下野いきいき会館、9名参加)

農小の加藤緑先生を招き、絞り藍染めに挑戦し、世界に一枚しか無い「マイTシャツ」の出来に大満足の様子でした。また当日のスタッフも参加して出来を競い、大変な盛り上がりようでした。

午後は「花餅」づくりに挑戦しました。あぼ兄が高山の知人からプレゼントされた、本場の花餅を参考にして土台を作り、昨年とは違ったものになりました。先生、スタッフ共に参加して、赤・白・緑の餅を付けて出来あがった「花餅」に満足して頂き、各家族一台は持ち帰ってもらいました。

予告していた「からすみづくり」は時間の関係で、急きょ「鬼万十」に変更となりましたが、参加者、スタッフ全員でお茶の時間をもち、和やかな内に今年度の課外授業は無事終了となりました。

～とくちゃんのちょっと一言～

今年で8年目を終えましたが、毎年多くの参加者があり、とても遣り甲斐のある授業でしたが、年々歳と共に体力、気力が衰えつつ有り、この先を心配しています。今協力して呉れている人達も若くはなく、自分の企画出来る能力もマンネリしてきましたので、ここら辺りで斬新なアイデアと活力で、引き継いでもらいたいと思っています。我こそはと云う方の出現を願っております。是非企画を持って事務局の山内さんに申し出て下さい。宜しくお願いいたします。

～安保兄の百姓ぼなし～

## 第20期を迎えた椀の湖農業小学校

今年の冬は例年になく寒い。この地でマイナス10℃以下は年に1、2度が普通だが、今年は5回もあり、しかも2月下旬にもあった。春先に一番元気の野菜ネギ類はまだ葉先に枯葉をつけている。3月になるというのに、裏庭には残雪、日蔭の道路には圧雪が残っている。昨年是一回も雪掻きをしないで済んだだけに、なおさら厳しさを感じた

北国では6m近い観測史上最高の積雪をみた。北海道では3月に入ってからというに瞬間的な暴風雪で動けなくなってしまった車の中で、あるいは車から避難しようとして歩き自宅や知人宅にた

どり着けずに9人ものが亡くなった。雪に埋まった車の母子4人、吹雪の中でわが子を庇って亡くなった父親、他のどの話も涙なくして聞けない。永年その土地に住んで寒さにも雪にも慣れているはずの人たちの中でこんな大惨事は初めてだという。

春の遅れは今年に限らず、農小の開校時、平成6年もそういう年だった。3月になっても何度かの降雪と寒さで、赤土の畑も道もぬかるんで資材を運び込むことができずに、建築予定の事務所の無いまま開校式を迎えたことを思い出す。

お金も学識も経験もない者たちが集まって、都会の子どもたち100人を集めて農業体験を始めるなどとは、無謀なことだったかもしれなかった。そんな農小も今年で20歳になる。これまで多くの方たちにお世話になりながら、なんとかやってこられたことに感謝の気持ちでいっぱいである。

2月、日本農業新聞にJT生命誌研究館長中村桂子氏の論説が載った。「農業を軸に豊かな国を」と題して、小学生の「人間力育む農体験」の大切さを説いていた。

本年度の日本農業賞・食の架け橋賞大賞を2団体が受賞した。その一つ、福島県喜多方市では2006年から小学校に「農業科」を始めたと云う。当時グローバル化の波の中で、小学生に英語やコンピューター教育を、特にコンピューターでは株の扱いなどを教える必要が言われたが、氏が「コンピューターの中の株よりも、畑の蕪(カブ)について知ることの方が大切ではないか」と書いた文を読んだ当時の喜多方市長が市内の3校で活動を始め、今では市内全小学校(17校)の3年生から6年生1900人が参加する活動に発展したという。

先生役の農家のお年寄りは見事な野菜を育てて子どもたちから尊敬される活動の場ができ、世代間のつながり、地域と学校のつながりができた。できた野菜を家庭に持ち帰って皆で食べると家族がえがおになり、一人暮らしのお年寄りに届けて泣いて感謝されたりして、子どもたちは「野菜のパワーのすごさ」を知る。作物づくりや収穫の喜び以上のものを学んだ子どもたちは、体験に基づいて内から生まれる表現力を豊かにし、人とのつながりを大切にする「社会性」や、自分で考え行動する「主体性」を身につけて行くという。

筆者は結びにこう主張している。「安倍首相は日本を強い国にしようと呼び掛けている。そこでは金力や武力を意識されているようだが、本当に強いのは人間力のある国だろう。農業は作物を生産するだけでなく、人間力を育てることが小学生たちの例で示された。その意味でも、農業を国の基盤に置き、本当の豊かな国をつくっていくという政策を考えてほしいと心から思う。」

中日新聞などによれば、今まで政府が公表を伏せてきたTPP交渉の裏事情が垣間見えてきた。国民にも、国会にさえまともな説明のないまま、交渉参加の方向へ進んでいるようだが、後から参加する国に交渉終結権も拒否権も認められないような中で、本当に国益は守れるのか懸念が広がっている。日本はなし崩しに農業など各分野で譲歩を迫られる可能性があるという。米や食品が安く買えるなどと喜ぶ先には、壊滅的な農業、広がる耕作放棄地、増える災害が目に見えるようだ。地球規模で天候異変や政情不安が続く中で、食糧の大半を外国に頼る国がまさかの時に飢えないでいられる保証はどこにもない。



第20期の今年、こんなことも考えながら、皆さんと一緒にケガの無い楽しい一年にしたいと願っています。

この顔が校長のあぼ兄です。

椋の湖農業小学校で皆さんにお会いできる日を楽しみに待っています。

# ～かなちゃんの虫日記～

入学おめでとうございます。

やっとやっと春がきて、あたたかくなってきましたね。

ところで、3月5日は戸丸口でしたよ



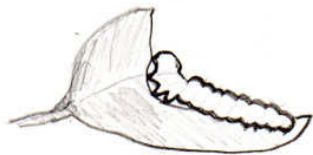
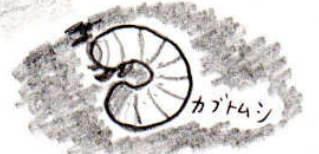
は「ひらく」、



は「虫が冬ごもりでじこもっている」

つまり、「虫が冬ごもりからでてくる」そんな日でした!!

冬、虫はさむいとうごけないので  
土の中やおちばの下にかくれていました。



春、草や木の芽がでて、花が

咲くと、ミツバチがみつや花粉を集めたり、

イモムシがはっぱをたべたり、

色々な虫がそれぞれのを始めます。

虫も植物も季節に合わせて生きているし、  
畑でやさいを作るときも季節に合わせて作っていきます。

やさいを虫にたべられることもあるかもしれませんが。

もし、でくわしたら、じっくり見てみましょう。

顔や体、色、まよう、歩き方、たべ方 などなど、きとおもしろいです。

にくいけど、すこし楽しくなれるかもしれません。